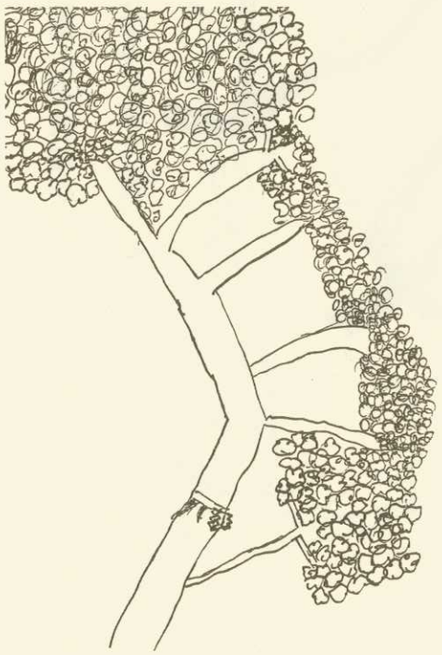
⑥ 薄墨桜

継体天皇がまだ男大迹皇子と呼ばれて、味真野や粟田部にお住いの頃のことです。山が三角形をなす地点、粟田部の皇谷山と岡本の別印の権現山とこの上河内の山に一本ずつ桜をお植えになりました。

その一本が、今も如来谷にある薄墨桜です。上河内の赤谷坂を登ると、岩の上に大きな桜の木が見えてきます。

皇子は河川改修に力をそそいでおられましたから、ここまでおいでになったのでしょう。愛娘の茨田ひめが住まわれている尾花の里も近いのです。

谷にせり出すように生えているこの桜は、お手植えの木の孫桜といわれています。幹まわり二・四メートル、しめ縄を張られた木は、里の桜が散った頃、ようやくピンクのつぼみをつけ、



ゆっくりと白っぽい花を開きます。まるで淡い墨をながしたように見える、風情のある桜です。

昔は花見のお祭りをして、にぎやかでした。踊り好きな伝助さんが、花に浮かれて踊りはじめたという伝助踊りは、今に伝えられているのです。

そうして、この天皇ゆかりの桜は、昭和四十六年に鯖江市の天然記念物に指定されました。品種はエドヒガンです。

⑦ 山伏岩と的岩

薄墨桜の上の林道のすぐ上に、七個の岩があります。むかし山伏が修行したという山伏岩です。

天正二年（一五七四年）に、鯖江の天台宗長泉寺に一向宗徒が攻めてきて、寺に火をかけました。

一年前に、朝倉義景が織田信長に滅ぼされてから、それまで長い間、朝倉氏と戦っていた一向宗の信者は、ここぞとばかり越前の国を自分たちが治める国にしようと立ちあがっていました。